

市町村名	宮古島市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	1-①	八重干瀬及び周辺地域自然環境保全活用促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(2)-ア		
担当部署名	生涯学習部 生涯学習振興課	事業実施 (予定)年度	令和4～令和9年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	自然環境の保全・再生・継承及び持続可能な利用  Ⅲ-10-(1)		
事業内容	八重干瀬は、国指定文化財(名勝及び天然記念物)となっているが、同時に自然公園法第1条に定める「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与すること」ができる可能性を有している。そこで、本事業では、国定公園等への指定を目指すため、八重干瀬とその周辺地域について、その自然資源の現況を把握し、保全活用体制の整備を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		75,537				
			67,518				
			▲8,019				
			0				
		B. 執行済額	67,518				
		うち交付金充当額	54,014				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	100.0%				
		予算の状況の説明	当初委託にて想定していた業務データを備品購入としたため、8,019千円の減額補正を行った。予算残額もなく、適正に執行できた。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	八重干瀬等の水深10m以浅の海域についてサンゴを主とする生物の分布状況概況及び攪乱状況、ならびに隣接沿岸の陸域植生について概況調査を実施する。	目標	( 概況調査実施 )	( )	( )	( )	
		実績	概況調査実施				
	八重干瀬等の地形図(海域においては概ね水深20m以浅)地形図を整備する(地形図データ購入)。	目標	( 地形図購入 )	( )	( )	( )	
実績		地形図購入					
達成状況説明	年度当初においては、八重干瀬等の地形図整備のため、測量委託業務の実施を予定していたが、当該地形図データが既に購入可能な状態であったため、委託業務を備品購入業務に変更した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	約3.9万haの対象地域の約10m以浅のエリアのサンゴ分布概況作成	目標	( )	( 3.9万ha/水深10m以浅 )	( )	( )	( )
		実績		3.9万ha/水深10m以浅			
	約3.9万haの対象地域の約30m以浅のエリアの詳細地形図取得	目標	( )	( 3.9万ha/水深30m以浅 )	( )	( )	( )
		実績		3.9万ha/水深30m以浅			
進捗状況説明	対象地域3.9万haの対象地域の約10m以浅のエリアのサンゴ分布概況の作成は当初の予定どおり完了できた。また、詳細地形図については、当初委託業務を想定して予算化していたが、事業執行の際にデータ取得済みの事業者があったため備品購入(データ)にて対応し、予定通り完了することができた。						

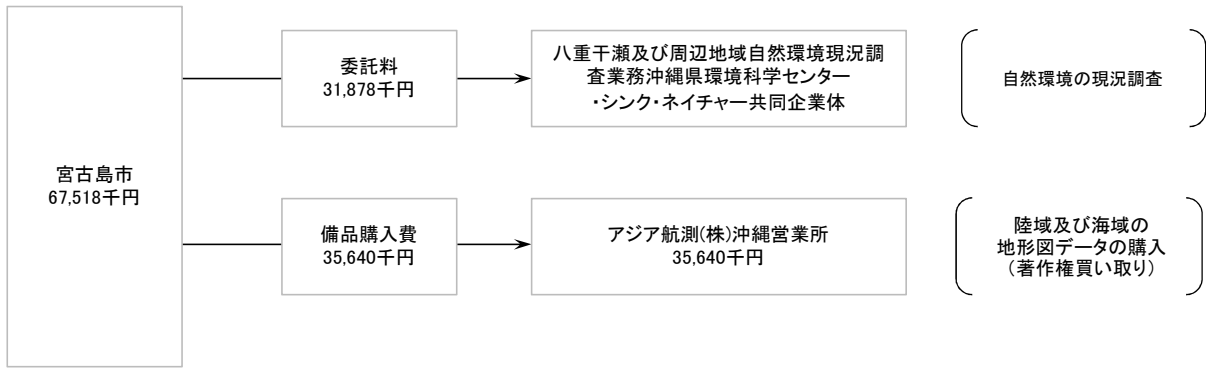
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年夏～秋に、高水温によるサンゴの白化現象が発生し、現地調査実施後、一部でサンゴが斃死している。令和5年度調査では、令和4年度調査をもとに詳細調査を実施する予定であるが、併せて令和4年度の白化現象の影響について確認する必要がある。</li> <li>八重干瀬等の地形図データを購入し、令和4年度中では国土地理院に情報を提供した。令和5年度では地元漁協にもデータを提供するが、地形図が漁業トレジャー等との調和的な海面利用に支障がないことを漁協に確認した上で、漁協以外の関係者にも地形図データの公表を進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国定公園指定に向けて地域の関心と理解を深めるため、令和4年度調査結果について、市民向けの説明会を令和5年度に開催する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 令和4年度の自然環境調査結果に基づき、令和5年度において詳細な生物調査を行う。
- 令和4年度の自然環境調査結果について市民説明会を開催する。
- 地形図データを令和5年度調査に活用すると共に、一般への公表を進める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
67,518	67,518	54,000	13,518	0



資金の用途の点検・費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委託業務は公募型プロポーザル方式により受託業者を決定しており、妥当であると考えている。</li> <li>○備品購入業務は、一般競争入札を市ホームページにより告示したが1社しか参加表明がなかった。宮古島市では1者入札に関する規定がなく、応札者1者しかない場合には入札を行わないこととなっていることから、随意契約とした。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	観光地アクセス道路環境美化路線強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ウ		
担当部署名	建設部 道路建設課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	美しい島づくりを推進するため、環境アクセス道路(主要道路32路線)の枝剪定・除草・清掃等を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		37,271	37,271	42,559	50,768	50,222
			37,271	37,271	43,048	51,598	49,225
			0	0	489	830	▲997
			0	0	0	0	0
		B. 執行済額	34,881	34,475	41,481	46,142	47,656
		うち交付金充当額	27,905	27,580	32,016	36,913	38,125
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	93.6%	92.5%	96.4%	89.4%	96.8%
		予算の状況の説明	当初予算額50,222千円から会計年度任用職員勤務実績等を勘案し、途中予算減額(▲997千円)を行ったが、作業員の中途退職があり不用額1,569千円となった。予算規模としては適切であったと考えている。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	観光地アクセス道路の環境美化の実施32路線	目標	( 作業実施 )	( 作業実施 )	( 作業実施 )	( 作業実施 )	
		実績	作業実施	作業実施	作業実施	作業実施	
	目標	(            )	(            )	(            )	(            )		
	実績						
	達成状況説明	宮古島市の主要観光地へのアクセス道路環境美化を図るため、市道32路線を選定し、18名を雇用し道路清掃作業を実施した。					
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	観光地周辺について、観光地としてふさわしい道路環境及び景観であるか(80%)を含め、観光客を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	(            )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(            )
		実績		—	95.9%	94.2%	
		目標	(            )	(            )	(            )	(            )	(            )
	実績						
	進捗状況説明	環境美化について宮古、下地島両空港にて観光客にアンケートを実施した結果、目標値である80%を上回り、約96%が満足だと回答した。観光アクセス道路の環境美化作業を実施することで観光地として、魅力的な景観形成が図られている。					

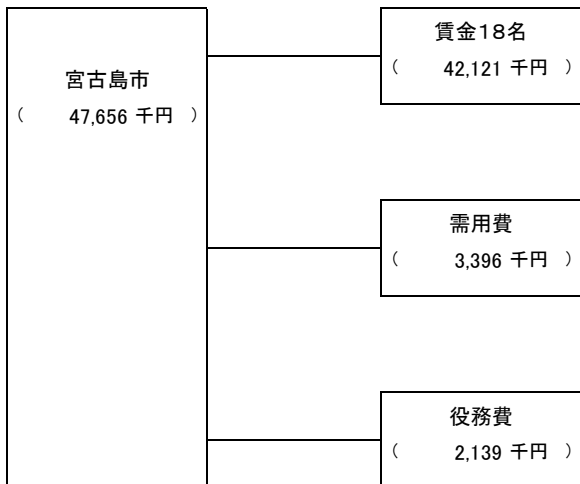
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>亜熱帯性気候で植物が繁茂しやすく、台風襲来後や豪雨時の路面への石粉の流出・堆積が多く、観光地としての景観維持や安全安心な観光地として道路の安全性を確保する必要がある。</p> <p>来島する観光客の多くが満足している値として、満足度80%を設定した。満足度目標値は達成できており、適切な回数、頻度での美化活動ができた結果が現れている。</p>	<p>観光客満足は目標値を継続して上回っており、適切な回数、頻度での美化活動ができておりその点については、継続して取り組んでいく必要がある。</p> <p>優先的に環境美化を実施する路線を見直し、作業環境の改善及び人員を確保し、必要に応じた配置等を行う。</p> <p>会計年度任用職員の雇用人数が多いため、毎年度不用額の発生が見通しづらい現状があるため、R05年度の実施については、委託業務の導入も検討する。</p>

**今後の取り組み方針**

R05年度は、対象路線及び環境美化作業を委託業務で行います。また、路面清掃の時期を再構築し観光地アクセス道路の更なる環境美化を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
47,656	47,656	38,125	9,531	0



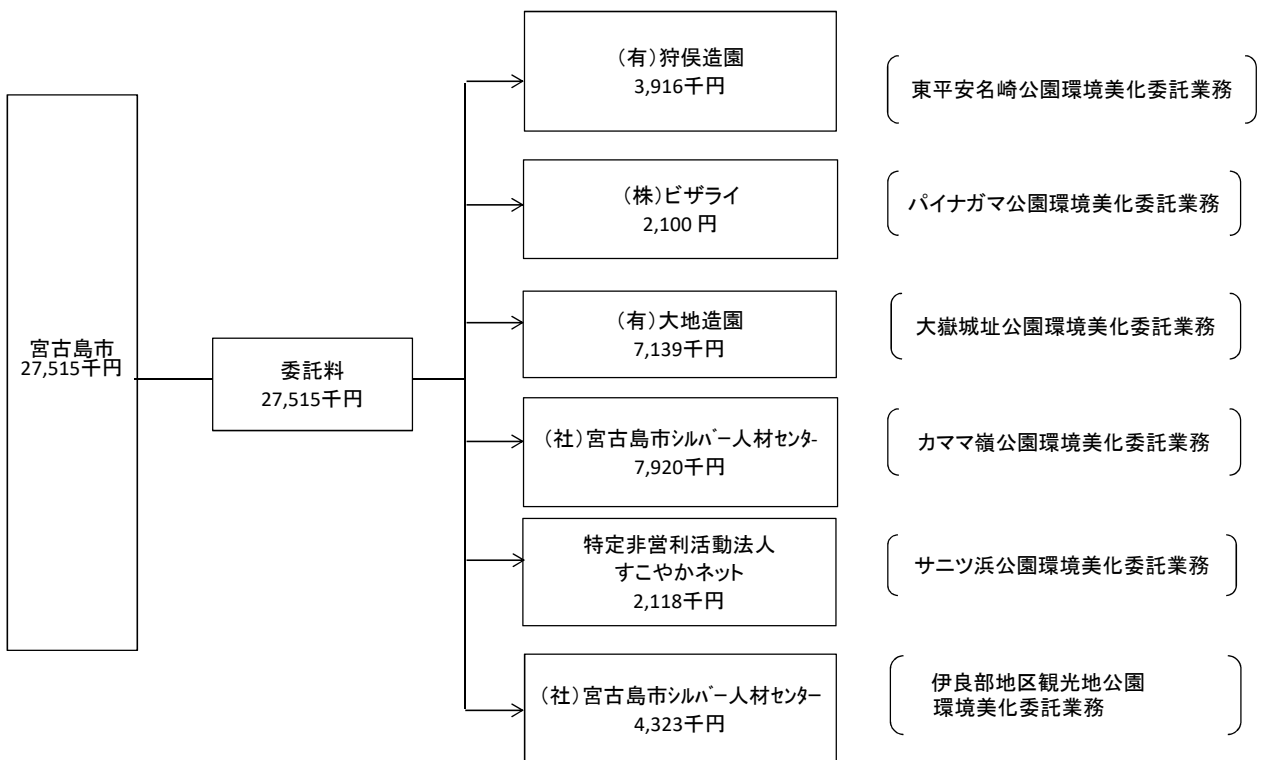
資金の用途の点検・費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○賃金職員は、本市条例・規則に基づき審査、決定しており妥当である。</p> <p>○台風等の災害で出勤できない不測の日が生じたが、予算規模は適切だった。</p> <p>○費目、用途については支出等に関する書類により確認し、妥当である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宮古島市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	観光地公園環境美化強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ウ	
担当部署名	建設部 都市計画課 観光工商スポーツ部 観光工商課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	美しい島づくりを推進するため、宮古島観光地公園5箇所(東平安名崎公園、パイナガマ公園、カママ嶺公園、大嶽城趾公園、サニツ浜公園)及び伊良部島観光地公園7ヶ所(サバオキ公園、フナウサギバナ、白鳥公園、通り池、佐和田の浜、渡口の浜、牧山公園)の観光地として利用されている公園の環境美化清掃を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	22,382	22,797	22,913	24,552	28,859
	(b) 予算現額	19,718	19,341	22,307	22,890	27,515	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 2,664	▲ 3,456	▲ 606	▲ 1,662	▲ 1,344	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	19,718	19,341	22,307	22,890	27,515	
	B. 執行済額	18,599	17,536	22,307	22,890	27,515	
	うち交付金充当額	14,879	14,029	17,845	18,311	22,012	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	94.3%	90.7%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	入札残のため、3月補正で1,344千円を減額した、						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
	観光地公園12ヶ所の環境美化作業実施	目標	( 12箇所 )	( 作業実施 )	( 作業実施 )	( 作業実施 )	
		実績	12箇所	作業実施	作業実施	作業実施	
	【参考指標】 定期的美化作業 宮古島:年12回(月1回程度)	目標	宮古島:年12回 (伊良部島:年4~5回)	宮古島:年12回 (伊良部島:年4~5回)	宮古島:年12回 (伊良部島:年4~5回)	宮古島:年12回 (伊良部島:年4~5回)	
		実績	宮古島:年12回 伊良部島:年4~5回	宮古島:年12回 伊良部島:年4~5回	宮古島:年12回 伊良部島:年4~5回	宮古島:年12回 伊良部島:年4~5回	
達成状況説明	宮古島観光地公園5箇所(東平安名崎公園・パイナガマ公園・カママ嶺公園・大嶽城趾公園・サニツ浜公園)においては、それぞれ月1回以上の除草作業等を実施した。 伊良部島観光地公園は7箇所(サバオキ公園4回、フナウサギバナ5回、白鳥公園5回、通り池5回、佐和田の浜5回、渡口の浜4回、牧山公園5回)の除草作業等を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	観光地周辺について、観光地としてふさわしい道路環境及び景観であるか(80%)を含め、観光客を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	(    )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(    )
		実績		-	95.9%	94.2%	
		目標	(    )	(    )	(    )	(    )	(    )
		実績					
進捗状況説明	環境美化について宮古、下地島両空港にて観光客にアンケートを実施した結果、目標値である80%を上回り、約96%が満足だと回答した。 観光地公園の環境美化作業を実施することで観光地として、魅力的な景観形成が図られている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・アンケート調査の結果、目標値である80%以上の約94%が満足と回答しているが、要因分析の中で、残り6%が「環境美化」、「自然を保護する」に対して、「やや不満足」との回答をしている。</p>	<p>・観光地公園の除草作業だけでなく、花・木など植物の植栽による環境美化を図る。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>1) 現在、植栽が行われていない花壇に季節の花・木などの植栽を行うことで、魅力ある観光地公園として環境美化の向上を図る。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
27,515	27,515	22,012	5,503	0



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託業務は指名競争入札等により適切に決定しており妥当である。 ○年度途中での減額は発生したが、入札残によるものため予算規模は適切であった。 ○費目、用途については支出等に関する書類により確認し、妥当である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宮古島市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	持続可能な観光地域づくり推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-イ	
担当部署名	観光商工スポーツ部観光商工課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和8年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	SDGsに適應する 観光ブランド力の強化	
事業内容	プロモーション及びセールス活動、観光マネジメント業務委託により宮古島市観光推進協議会及び宮古島市観光実務担当者会議を円滑に実施し第2次宮古島市観光振興計画で掲げた施策の実行体制を構築する。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	■直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	21,000	9,000	6,780	6,729	6,910
		(b) 予算現額	19,800	7,500	6,705	6,713	6,910
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,200	▲ 1,500	▲ 75	▲ 16	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	19,800	7,500	6,705	6,713	6,910
	B. 執行済額		19,182	7,259	5,699	5,663	6,830
	うち交付金充当額		15345	5807	4559	4,530	5,464
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		96.9%	96.8%	85.0%	84.4%	98.8%
予算の状況の説明		観光マネジメント業務委託については100%の執行率となった。不用額は観光プロモーションに係る旅費等の残額によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①観光PRイベント等への参加	目標	( イベント参加 )	( イベント参加 )	( イベント参加 )	( イベント参加 )	
		実績	イベント参加	イベント参加なし	イベント参加なし	イベント参加	
	②新規航空路線就航に向けたPR活動	目標	( 活動実施 )	( 活動実施 )	( 活動実施 )	( 活動実施 )	
		実績	活動実施	コロナの影響により未実施	コロナの影響により未実施	活動実施	
③観光マネジメント業務の実施	目標	( 業務実施 )	( 業務実施 )	( 業務実施 )	( 業務実施 )		
	実績	業務実施	業務実施	業務実施	業務実施		
達成状況説明	<p>【観光PRイベント等への参加】 首都圏や関西圏、福岡など国内の主要な都市を中心とした観光PRイベントに参加し、誘客促進に向けたプロモーション活動を実施するとともに、海でのマナーについてなど宮古島を訪れる観光客へ持続可能な観光地づくりの一環としてエコアイランド宮古島としての取組を発信。</p> <p>【新規就航路線就航に向けたPR活動】 海外からの新規航空路線就航に向け台湾でのトップセールス活動を実施した。</p> <p>【観光マネジメント業務】 第2次宮古島市観光振興基本計画で定めた観光振興に関する施策を官民一体となって推進し、宮古島市の活性化を図る事を目的とする宮古島市観光推進協議会(3回)及び観光実務担当者会議(3部会・各2回)を開催した。</p>						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)	
		入域観光客数605,300人以上	( )	( 1,150,000 )	( 642,000 )	( 605,300 )	( )
			実績	359,592	434,969	737,279	
			目標	( )	( )	( )	( )
進捗状況説明		宮古島市への入域観光客は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、クルーズ船については1回の寄港にとどまり、351人だったものの、航空路線については、好調な回復を見せ、736,928人となり、クルーズと航空路線合わせた入域観光客数は737,279人となり、目標値を上回る結果となった。					

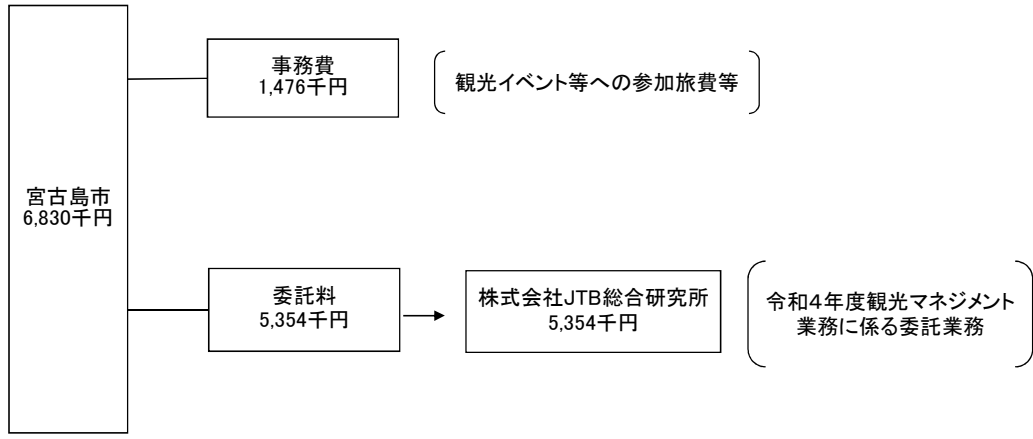
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空路線についてはコロナの行動制限の緩和のタイミングにおいて、各種PR活動を行ったことや全国旅行支援等の制度もあり、好調な回復を見せたが、次年度以降の海外旅行への需要増加による国内旅行の需要動向及び全国旅行支援終了後の動向を注視する必要がある。</li> <li>観光マネジメント業務において、各種観光問題、特にコロナ禍において人材等が流出したことによる人材不足の課題が浮上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内旅行の誘客に向けた国内PRイベントや海外からの渡航増に向けた国際PRを実施していく必要がある。</li> <li>観光マネジメント業務にて、人材不足等の課題について、官民で議論し、課題を共有し、今後連携して対策していくこととした。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 新型コロナウイルス感染症が5類に移行する予定であることを受けて、令和5年度からはアウトバウンド・インバウンドとも需要が復活していくことを予想されるため、国内外のイベントともプロモーションの方法やタイミングに配慮し実施していく。
- 人材の季節ごとの需要と供給のバランスをとる仕組み等について、他部署と連携して検討していく。
- 観光マネジメント業務で共有した課題の解決に向けて、関係各部署と連携し事業を実施する。
  - 令和4年度に実施したサウンディング結果及びテラスビジネスの専門家の意見を踏まえた伊良部牧山公園の整備方針の決定
  - 宿泊税の導入に向けた事業者説明会等の実施
  - 人材不足等新たな課題や、年間入域観光客数200万人の目標数の妥当性等の検討も含めた受入キャパシティの評価

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,830	6,830	5,464	1,366	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施にあたっては、公募型プロポーザル方式により、提案内容の優劣、実績・知識等の面で信頼性のある事業者を選定して契約しており、支出先としては妥当であると考えられる。</li> <li>不用額は事業費の2%以内であり適正な規模であった。</li> <li>費用・使途については、事業完了後に検査を行った結果適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	宮古島市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	閑散期におけるスポーツ合宿誘致検証事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	4-3-(9)-ア		
担当部署名	観光商工スポーツ部スポーツ振興課	事業実施(予定)年度	令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化		
事業内容	本市が保有する自然環境や温暖な気候を活用することで閑散期における来島を促し、長期滞在型スポーツ合宿誘致を推進することで、年間で島外からの誘客を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		32,459				
			32,459				
			0				
			0				
		B. 執行済額	32,346				
		うち交付金充当額	25,876				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	99.7%				
		予算の状況の説明	プロポーザルにより、契約金額が当初予算を下回ったため、第4回交付決定変更にて113千円減額した。減額幅も過大ではなく、当初予算規模は適切であったと考えている。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		閑散期におけるスポーツ合宿誘致の検証	目標	(    誘致検証    )	(    )	(    )	(    )
			実績	誘致検証			
		目標	(    )	(    )	(    )	(    )	
		実績					
達成状況説明	本市のスポーツ施設利用可能な競技で合宿期間が(11月から2月まで)に行うスポーツの抽出を行い、募集をかけた。(野球、陸上、ラグビー、ウインドサーフィン、自転車、トライアスロン) 海外からも、プロ野球チームが視察に来島しており、宮古島市の野球場環境は合宿を行うには問題ないという意見ももらい、来年度は是非宮古島で合宿を行いたいとの申し入れもあった。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
		目標	(    )	( 60 )	(    )	(    )	(    )
		実績		56			
		目標	(    )	(    )	(    )	(    )	(    )
	実績						
	進捗状況説明	申し込みは70団体ほどあったが、施設の利用期間が重なり受け入れができなかった団体や、合宿中止の団体があり、目標に届かなかった。本市で合宿を行いたいという野球チーム数は多いが施設が限られており、すべての団体を受け入れることができなかった。					

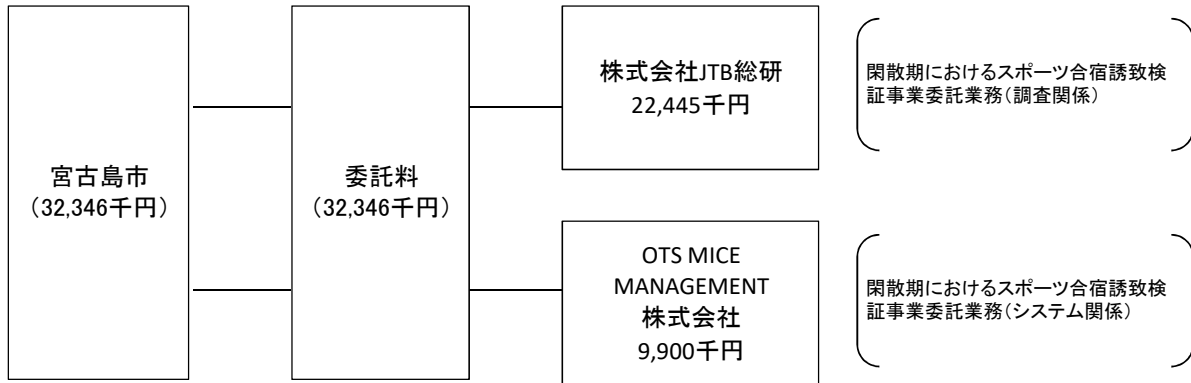
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本市が保有するスポーツ施設に適合するスポーツ競技の絞り込みを行い、他に海や道路等でも合宿可能な競技等も調べ、優先的に誘致した結果、多くの申し込みがあった。またコロナの収束も要因にあげられる。 また、令和2、3年度は新型コロナウイルスの影響による、合宿の受け入れ中止が生じたため、感染状況を注視し、施設の感染症対策を徹底するように、受け入れ施設の指定管理者と随時調整する必要がある。	本市が保有するスポーツ施設に適合するスポーツ競技の絞り込みを行い、各種競技団体に聞き取りを行った結果として、施設満足度、設備の不足状況、各種事業者との調整を要する事項(食事提供、レンタカー確保など)が必要ということがわかった。 また、合宿ニーズはあるものの、施設予約のスケジュール上、受入を断るケースが発生したため、スケジュール調整のルールを再度検討する必要性も生じた。

**今後の取り組み方針**

野球、サッカー、ラグビーなどの団体競技は1チームあたりの人数規模や消費額の大きさはインパクトがあるものの、球場、グラウンドの数が限られているため、同時期に合宿の全体数を増やすことは困難であり、どのチームを優先するか、いかに合理的に施設利用調整するかにより経済効果やPR、地元と交流機会の創出などを今後整理する必要がある。一方、個人競技は1チームあたりの人数規模や消費額の大きさは団体に比べ少ないケースもあるものの、施設数の限界がないことで合宿誘致の全体数を増やすのには適していることがわかったため、今後の誘致に活用していく。  
球場や施設の効果的な活用に向けた運用ルールづくりや、環境整備、スポーツ合宿誘致関係者間の連携強化、市一体となった新たなスポーツ合宿誘致戦略の策定に取り組んでいく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
32,346	32,346	25,876	6,470	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約相手は公募型プロポーザルにより選定しており適切であった。 ○契約金額と実績額の差額についても、事業内容を精査した結果であり、適切だった。 ○費目、使途も必要なものに限定し適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

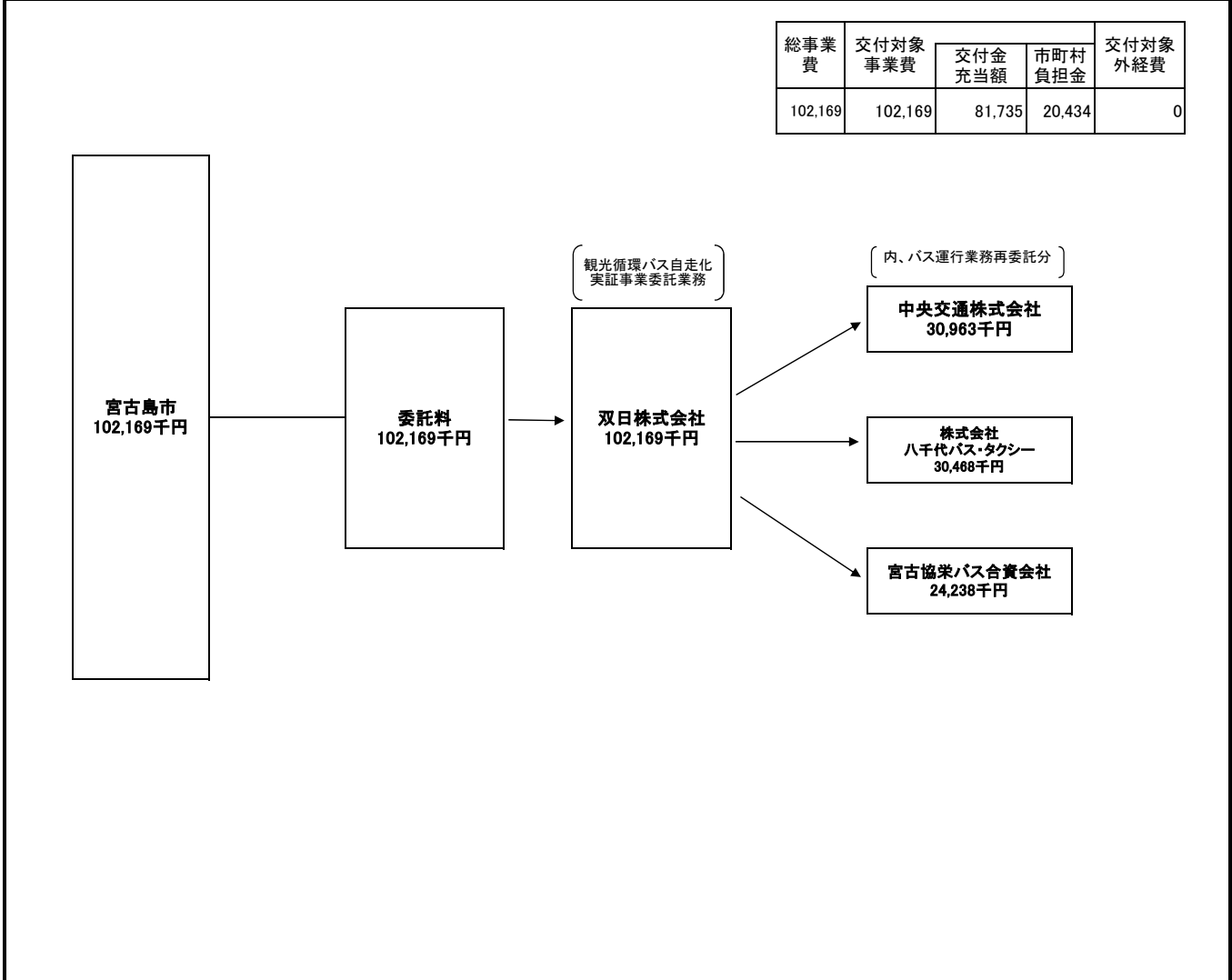
市町村名	宮古島市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	観光循環バス自走化実証事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部署名	企画政策部 企画調整課	事業実施(予定)年度	令和4年～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備		
事業内容	観光循環バスの将来的な自走化運行の実現へ向けて、採算性のあるルート・ダイヤの検討を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和6年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	109,880				
		(b) 予算現額	109,880				
		(c) 増減額(b-a)	0				
		(d) 繰越額	0				
	A. 計(b+d)		109,880				
	B. 執行済額		102,169				
	うち交付金充当額		81,735				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		93.0%				
予算の状況の説明		当初予算から、プロポーザルによる契約金額と契約金額との差額が発生したため、第4回交付決定変更にてで94千円減額を行った。不用額7,711千円については、運賃収入および協賛金収入の収入分を委託料から差し引いたことによる委託料の精算差額によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	観光循環バスの本格運行の利用促進が図られるルート・ダイヤの検討	目標	( 検討 )	( )	( )	( )	
		実績	検討				
	利用者、関連事業者の課題把握	目標	( 課題整理 )	( )	( )	( )	
実績		課題把握					
達成状況説明	・観光客からの乗降ニーズが高いと思われる空港、宿泊施設、観光施設、商業施設を結ぶルートを設定し、利用促進が図られるルート・ダイヤの検討を行った。 ・利用者、関連事業者の課題把握については、観光協会、観光関連事業者等との「自走化へ向けた検討会」を4回開催し、課題の整理を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R6年度)
	採算性のあるルート・ダイヤの選定	目標	( )	( 選定 )	( )	( )	( )
		実績		候補の選定			
	【R6年度成果目標】 1日あたりの運行バス本数:往復16本/日	目標	( )	( 14本/日 )	( )	( )	( 16本/日 )
		実績		14.7本/日			
進捗状況説明	・採算性のあるルート・ダイヤの選定については、停留所及び時間帯毎の乗降調査、利用者へのアンケート調査を実施し、将来の自走化へ向けた候補ルート・ダイヤの選定を行った。 ・R6年度成果目標である1日あたりの運行バス本数:往復16本運行へ向け、夏ダイヤ89日:往復17本/日、冬ダイヤ110日:往復13本/日の1日当たり平均14.7本の運行実績となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(採算性のあるルート・ダイヤの選定) ・観光需要が戻り、公共交通への需要も高まった影響から、利用者は一定数あった。一方で、運行経費に対する収入割合が低い状況。	(採算性のあるルート・ダイヤの選定) ・実証結果を基に、利用者の多いルート・ダイヤの設定を行うと共に、運賃体系の検討を図る。
	(1日あたりの運行バス本数:往復16本/日) ・調査の結果から、空港～市街地を多頻度で運行する循環バスを求める声が多い。	(1日あたりの運行バス本数:往復16本/日) ・ニーズに合わせた運行本数の確保。

**今後の取り組み方針**

(採算性のあるルート・ダイヤの選定) ・利用者が多い空港、宿泊施設からの移動需要に合わせたルート・ダイヤ編成を行う。 ・運賃体系を見直し、将来の自走化運行へ向けた体制構築を行う。
(1日あたりの運行バス本数:往復16本/日) ・既存ルートに加え、空港～市街地を循環するルートを創設する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約相手方は公募型プロポーザルにより選定しており、適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○残額が発生したものの、収入等を精査した上での差額のため適正な予算規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的に則し、真に必要なものに限定されている。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	"宮古島産の牛"生産推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(10)-ア		
担当部署名	農林水産部畜産課	事業実施(予定)年度	令和4年～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	離島における畜産業の振興		
事業内容	安定した生産供給体制の確立及び肉用牛の生産拡大を図るため、増産及び売上増加に向けた支援として母牛更新に係る費用の一部を補助する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和 年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		32,000				
			11,400				
			▲ 20,600				
			0				
		B. 執行済額	11,336				
		うち交付金充当額	9,068				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	99.4%				
		予算の状況の説明	全国的な子牛価格の下落傾向や配合飼料の急激な高騰により買い控えが生じたため、導入予定頭数に対し申請数が大幅に減少したため、当初予算から3月補正で20,600千円減額した。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	優良母牛更新80頭/年	目標	( 80頭 )	( )	( )	( )	
		実績	32頭				
		目標	( )	( )	( )	( )	
実績							
達成状況説明	当初80頭導入予定でしたが、全国的な子牛価格の下落傾向、配合飼料の急激な高騰により、買い控えが生じたため、導入予定頭数に対し大幅に減少しました。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(3年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	素牛の年間出荷頭数:4,176頭	目標	( 4,078 )	( 4,176頭 )	( )	( )	( )
		実績		4,081頭			
	素牛の平均販売額700千円	目標	( 702千円 )	( 700千円 )	( )	( )	( )
		実績		597千円			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>素牛の年間出荷頭数については目標に達しなかったが、基準値(令和3年度)に比べ微増となった。</li> <li>素牛の平均販売額については配合飼料の急激な高騰により、買い控えが生じたため全国的な子牛価格の下落傾向となり目標に届かなかった。</li> </ul>						

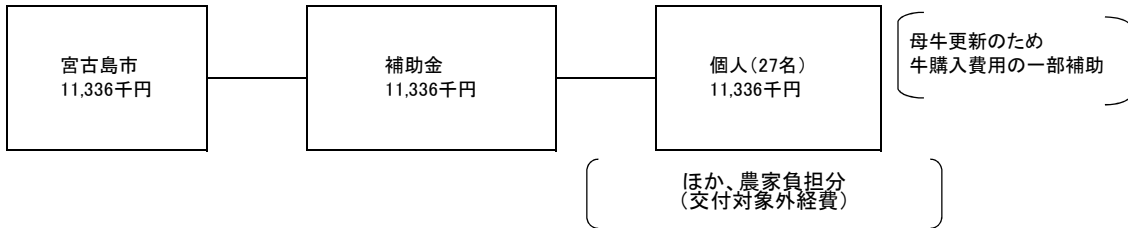
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(素牛の年間出荷頭数) ・令和3年度に比べ令和4年度は販売価格が下落したため、目標頭数に達しなかった。セリ価格安定のためにも出荷頭数を増やす必要があるが、対前年比で微増にとどまった。	(素牛の年間出荷頭数) ・母牛の高齢化や適宜更新が行われないことで、良質な素牛生産が減少し、出荷頭数が年々減少している。引き続き事業を進めていくことで母牛が若返り、良質な素牛生産に繋げる。
	(素牛の平均販売額) ・目標額を大幅に下回った要因として、コロナ過での先行き不安、配合飼料価格の高騰、生産費負担増による経営圧迫が深刻化しており肥育農家の購買意欲の低下により平均販売価格が伸びなかった。	(素牛の平均販売額) ・平均販売額についてはセリによるものなので外的要因が多いが、飼養管理のいき届いた良質の子牛出荷や母牛更新による導入のために競り合うことで販売額の増に繋げられる。

**今後の取り組み方針**

・令和5年度は農家へ更なる周知を行い、導入頭数が目標に達するように事業を進めていく。母牛更新による良質な素牛生産に繋げ、出荷頭数の減少に歯止めをかけ、平均販売額の増加に繋がるよう取り組んでいきます。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
26,582	11,336	9,068	2,268	24,314



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○導入の実施計画を提出してもらい、要件を確認し補助を決定した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○令和4年度については市場価格の下落、配合飼料の価格高騰などの不安もあり、導入が予定頭数に届かなかった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担についても妥当な範囲で設定している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については交付決定の段階で確認しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	宮古島市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	地産地消による地域内経済循環システム構築事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(1)-(ウ)		
担当部署名	産業振興局	事業実施(予定)年度	令和4年～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域・産業間連携による「稼ぐ力」の向上		
事業内容	地産地消による地域内経済循環促進と生産者及び関連事業者の所得向上を図るため、学校給食等における地産食材活用の推進、地産地消ブランドづくり、地域経済循環分析などに関するシステムづくりを推進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		20,400				
			20,400				
			0				
			0				
			20,400				
	B. 執行済額 うち交付金充当額		19,551				
			15,640				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		95.8%				
予算の状況の説明	不用額889千円については、当初予算とプロポーザル契約による差額及び、委託契約の精算実績によるものである。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	地産地消コーディネータ実証	目標	( 実証実施 )	(            )	(            )		
		実績	実証実施				
	地産地消ブランド制度検討	目標	( 制度検討 )	(            )	(            )		
		実績	制度検討				
	地域内経済循環分析システムづくり	目標	( システムづくり )	(            )	(            )		
実績		産業連関表作成及び産業構造分析					
達成状況説明	・地産地消に必要なコーディネータ機能に関する調査を実施し、小規模なトライアルを実施した。 ・地産地消ブランドの認証制度の検討を行った。地域ブランディングの手法を用いることで、一過性ではない持続的な取り組みにしていく必要性が明らかとなった。 ・市独自の産業連関表(2015年と2020年)を作成し、産業構造分析を行った。2015年から2020年にかけて総需要の増加が見られる一方で、移輸入による供給の増加率が市内の生産による増加の率よりも上回っており、経済の漏れの実態が明らかとなった。全産業における経済の「漏れ穴」分析では食料品の占める割合が大きく、食の地産地消を進めることの有効性が示された。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)	基準値(R2年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	学校給食における地産食材利用率の向上(13%以上)	目標	( 11.1% )	( 13% )	(            )		(            )
		実績		17.7%			
		目標	(            )	(            )	(            )	(            )	(            )
実績							
進捗状況説明	・地産食材利用率については、本市の学校給食共同調理場(5調理場)のデータを集計しており、令和2年度の11.1%から令和4年度17.7%へと増加している。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・地産地消推進協議会の開催や生産者と学校給食共同調理場側との情報交換の場の提供、地産地消フォーラムの開催など、様々な取り組みを通して市として地産地消を重点的に進める方針を示していることもあり、学校栄養士や生産者を含む関係者が地産地消に対して意欲的に取り組んでおり、順調に利用率が向上している。</p> <p>特に、野菜・水産物で利用率が向上しており、野菜に関しては生産者が学校給食への納品に力を入れ始めていることが要因と考えられる。水産物に関しては、マグロなどの加工品の増加が要因となっている。</p>	<p>情報共有や保管、物流に関する仕組みづくりを進めることで、さらなる地産食材利用率向上を達成できると思われる。</p>

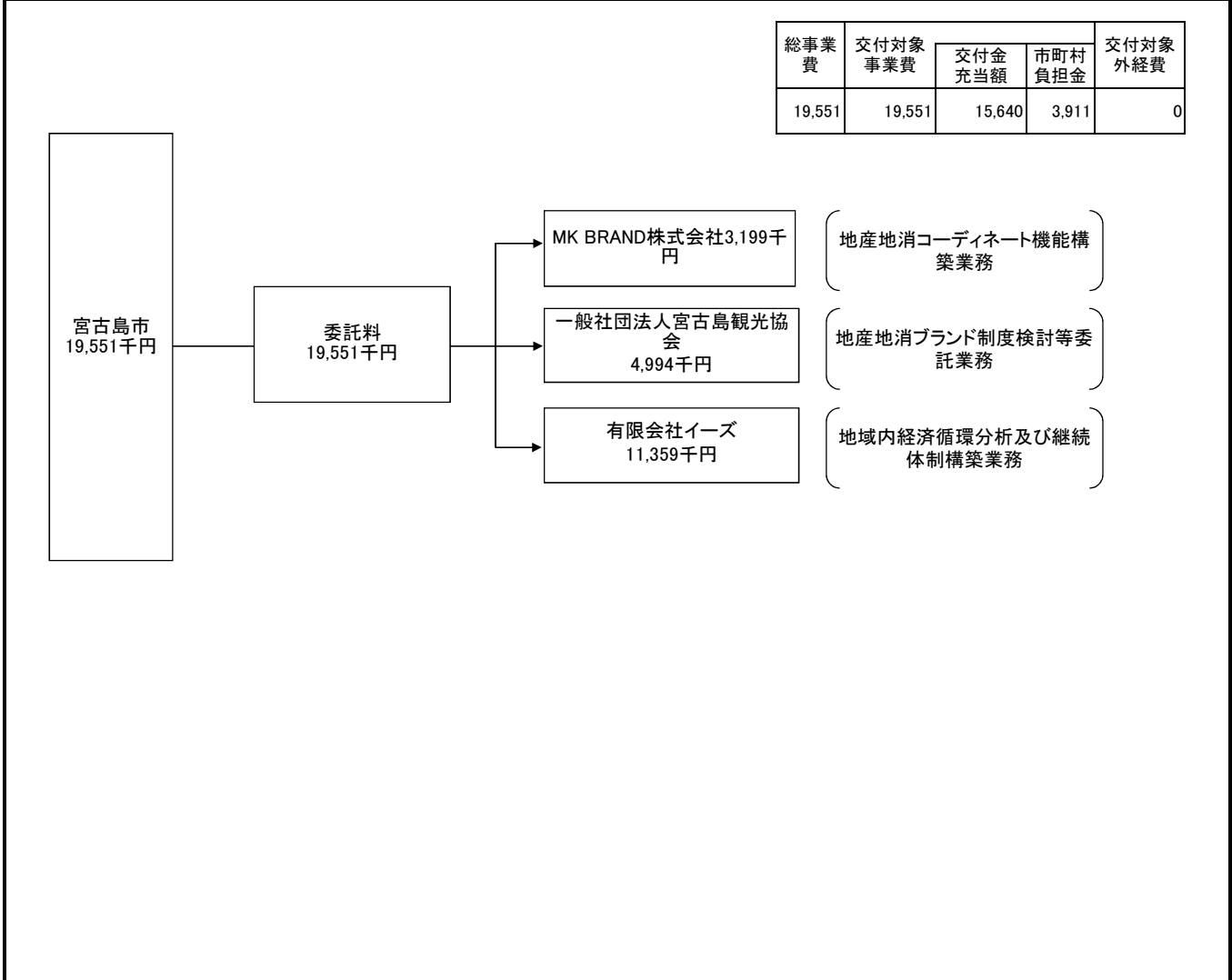
**今後の取り組み方針**

地産地消に必要なコーディネート機能として、生産者や関係者間の情報共有、保管や物流に関する仕組みづくりの必要性が明らかとなったことから、令和5年度事業として、コーディネート機能の運用・検証を本格的にスタートする。

市民の地産地消に関する意識を高め、ムーブメントを起こしていくことで、学校給食以外分野でも地産地消を推進していくことができると思われることから、地産地消ブランドづくりに向けたコンセプト、マニュアルづくり等を推進する。

市内の経済循環の状況を広く市民と共有し、分析結果を活用して様々な取り組みを創出していく仕組みづくりを進めていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○特定の受益者はいないため、受益者負担は生じていない。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

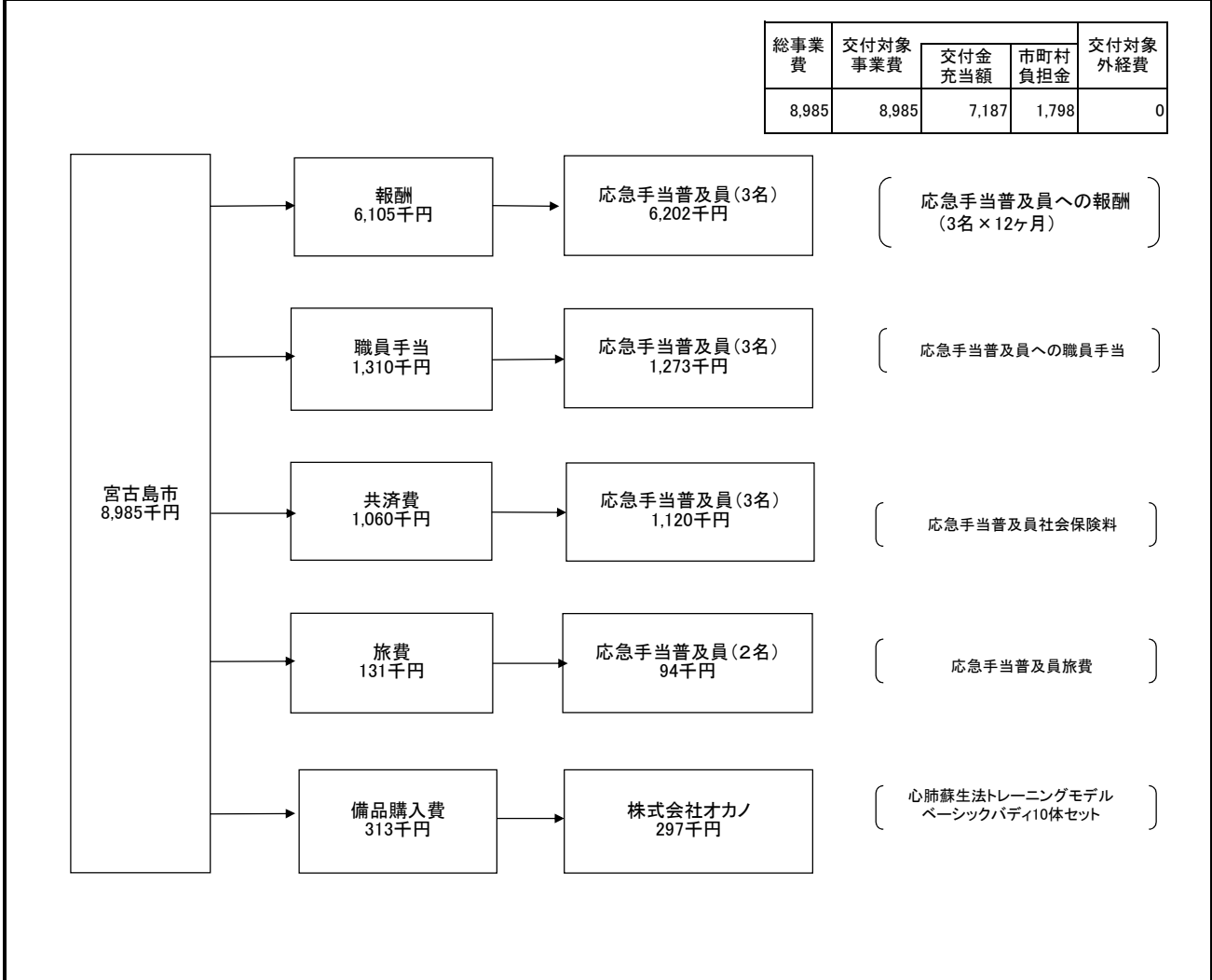


市町村名		宮古島市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-① 救命処置普及強化支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(3)-ウ		
担当部署名	消防本部 総務課	事業実施(予定)年度	平成28～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9		
事業内容	観光客や市民等に重篤な傷病者が発生した際の応急体制を確保するため、市民の救命能力の向上と普及啓発に取り組む。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,411	7,414	7,755	18,725	8,918
		(b)予算現額	7,411	7,418	7,992	16,777	8,885
		(c)増減額(b-a)	0	4	237	▲1,948	▲33
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		7,411	7,418	7,992	16,777	8,885
		B. 執行済額	7,386	7,418	7,990	16,695	8,985
		うち交付金充当額	5,909	5,933	6,391	13,355	7,187
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.7%	100.0%	100.0%	99.5%	101.1%	
予算の状況の説明	令和4年10月4日付、人委第366号の通知を参考に給与改定があり、報酬97千円、共済費61千円の増額の為、事業間流用で対応した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・応急手当普及員:3名配置	目標	( 3名 )	( 3名 )	( 3名 )	( 3名 )	
		実績	3名	3名	3名	3名	
	・定例救命講習会の実施:21回	目標	( 定例21回 ( I/15回、Ⅲ/3回、上級/3回) )	( 定例21回 ( I/15回、Ⅲ/3回、上級/3回) )	( 定例21回 ( I/15回、Ⅲ/3回、上級/3回) )	( 定例21回 ( I/15回、Ⅲ/3回、上級/3回) )	
		実績	定例15回 ( I/10回、Ⅲ/2回、上級/3回)	定例10回 ( I/8回、Ⅲ/0回、上級/2回)	定例11回 ( I/8回、Ⅲ/1回、上級/2回)	定例13回 ( I/7回、Ⅲ/3回、上級/3回)	
	・出前救命講習会の実施:随時受付開催	目標	( 開催 )	( 開催 )	( 開催 )	( 開催 )	
		実績	開催	開催	開催	開催	
	・救命講習に関する普及啓発活動	目標	( 各種イベント等、地元ケーブルテレビ・ラジオで広報活動 )	( 各種イベント等、地元ケーブルテレビ・ラジオで広報活動 )	( 各種イベント等、地元ケーブルテレビ・ラジオで広報活動 )	( 各種イベント等、地元ケーブルテレビ・ラジオで広報活動 )	
		実績	出初式、防災フェア、防火委員会、宮古テレビ、FM宮古、広報誌	宮古テレビ	宮古テレビ YouTube	防災フェア、防火委員会、宮古テレビ、広報誌、YouTube	
心肺蘇生法トレーニングモデルベーシックパディ10体セットの購入	目標	( )	( )	( )	( 訓練用人形の追加)		
	実績				購入		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>専属の応急手当普及員を3名配置し、市民を対象に定例救命講習会、出前救命講習会を実施した。</li> <li>定例救命講習会は、前年度より広報活動に力を入れた結果、回数を伸ばすことが出来たが、新型コロナウイルスの影響などから直前でキャンセルがあり、定例講習会の実施回数については、目標を達成することが出来なかった。</li> <li>心肺蘇生法トレーニングモデルベーシックパディ10体セットを購入し、講習会の充実を図った。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R5年度)
	救命講習会受講者数	目標	( )	( 1,700名 )	( 950名 )	1200	( 1300 )
		実績		571名	774名	1399	
	救命講習受講者へのアンケートで適切な応急手当が理解できたか(80%)を含め本事業のあり方を検証する。	目標	( )	( 80% )	( 80% )	80%	( 80% )
		実績		79.8%	89.2%	86.0%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響を受けたが、広い場所や換気を実施するなど、工夫したことや広報活動に力を入れたことで、目標人数を達成することができた。</li> <li>受講者の理解度について、講習会后、アンケートを実施した結果、反応・呼吸の確認、胸骨圧迫、AEDの使用については、90%以上となった。また、全項目の平均でも86%となり、目標を達成できた。</li> </ul>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(定例救命講習会) ・新型コロナウイルスの感染対策が確立してきたこともあり、定例及び出前講習会、共に人形1体につき、1名受講者数から1体につき、5名受講者数に増加させて講習会を行ったため、目標を達成することが出来た。 (受講者の習熟度検証) ・新型コロナウイルス感染の流行期には、成人に、人工呼吸を推奨せず、胸骨圧迫とAEDの取り扱いを中心とした指導を行った為、実施者の理解度が上がったと思われる。	(救命講習会受講者数) ・開催方法の見直しや定期的な講習会の受講を呼び掛ける。  (受講者の習熟度検証) ・ガイドライン2020対応のトレーニングキットなどを活用し、講習会の質を向上させる。 ・心臓マッサージ及びAED使用の重要性を理解してもらう為、現場想定シミュレーションなどを実施し、理解度の向上を図る。

今後の取り組み方針
(定例救命講習会) ・定例救命講習会の過去の実績を考慮して、開催日や開催項目(普通救命講習Ⅰ・Ⅲ・上級)の増減などを検討し、受講者が参加しやすい環境を目指す。  (受講者の習熟度検証) ・感染対策を踏まえた上で気道確保や人工呼吸の理解度の向上や胸骨圧迫やAEDの習熟度を伸ばすため、ガイドライン2020対応のトレーニングキットを活用し、より実践的な講習会を目指す。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は随意契約を行っており適切に執行したと考える。 ○事業の適切な運営に伴い、予算執行も適切に行われた。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	課題を抱える児童生徒の支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進		
事業内容	生徒指導上、課題のある児童生徒の生活環境改善のため、個々に応じた支援の充実に向け、教育委員会にスクールソーシャルワーカーを配置する。 また、課題を抱えた児童生徒が在籍する学校に適切な指導・支援の取り組み強化のために問題行動等学習支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額	A. 計(b+d)	15,167	13,591	17,968	20,312	25,674
		B. 執行済額	12,570	11,361	15,785	18,986	20,820
		うち交付金充当額	1,005	909	1,268	1,519	1,656
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		82.9%	83.6%	87.9%	93.5%	81.1%
	予算の状況の説明 当初予算から、不用額通信運搬費の支出取りやめのため、また、問題行動等学習支援員の求人に対して応募が少なく、予定していた人数を確保できなかったり、スクールソーシャルワーカーが無給休暇を取得したりしたため、3月補正で予算1,578千円減額した。不用額4,854千円については、問題行動等学習支援員・スクールソーシャルワーカーの欠員によるものである。						
	<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況			
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		スクールソーシャルワーカー 社会福祉士の配置		目標 ( 6人配置 ) 実績 4人配置	( 6人配置 ) 5人配置	( 6人配置 ) 6人配置	( 6人配置 ) 6人配置
問題行動等学習支援員の配置		目標 ( 3人配置 ) 実績 3人配置	( 3人配置 ) 3人配置	( 3人配置 ) 3人配置	( 3人配置 ) 6人配置		
達成状況説明 ・スクールソーシャルワーカーを6人配置することができた。しかし、社会福祉士の資格を持ったスクールソーシャルワーカーを配置することができなかった。 ・スクールソーシャルワーカーは、市内27校(小学校16校、中学校11校)に1人4校~5校の分担で配置し、支援を要する児童生徒の家庭環境改善に向けて、関係機関に繋ぐ働きかけを行った。 ・問題行動等学習支援員は、6人を配置することができた。市内小中学校5校(小学校3校、中学校2校)に配置し、問題行動等の児童生徒の登校支援、学習支援等を行った。							
R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
不登校児童生徒のうち、登校復帰または学びの場へ繋がった児童生徒の割合60%以上		目標 (    ) 実績 25%	( 50% ) 29%	( 60% ) 35%	( 60% ) 35%	(    ) 35%	
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>		目標 (    ) 実績					
進捗状況説明 ・登校復帰または、学習の場へ繋がった児童生徒の割合は35%で目標に届かなかったが、令和3年度より6%増加している。 ・中学校において、登校復帰をした生徒の86%は問題行動等学習支援員を配置した学校の生徒であった。 ・スクールソーシャルワーカーや問題行動等学習支援員による児童生徒や保護者への支援、関係機関との連携が不登校の早期対応や学校復帰や学びの場へ繋がっている。学校において、スクールソーシャルワーカーや問題行動等学習支援員が機能的に活用されている。							

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に届かなかった理由として、子どもたちを取り巻く環境の複雑化やコロナの影響に伴いスクールソーシャルワーカーや問題行動等学習支援員へのニーズも多様化、複雑化しており、対応が困難になっていることが考えられる。</li> <li>・目標とする登校復帰とはならなかったものの、下記に記載のとおり支援を行い不登校児童生徒の将来的な登校復帰、社会的自立に繋げている。</li> <li>①登校支援や学校での居場所の確保など児童生徒の抱える課題に対して、教員との連携を図って個別に支援を行った。</li> <li>②不登校の児童生徒の保護者には経済的・精神的にゆとりがない等の傾向や学校に通わせることが絶対ではないという意識の者も増えているため児童家庭課や福祉課などの関係機関との情報共有・連携の元、保護者への支援を行った。</li> <li>・学校訪問や各研修会で事業の周知を行うことで、早期対応や適切な支援へ繋がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務日誌から支援内容を確認し、一覧表にすることでニーズの把握に努める。</li> <li>・引き続き課題のある児童生徒及びその保護者に対して、学校や児童家庭課、福祉課等と連携をとりながらきめ細かな支援を行い、学校若しくは学校以外の適応指導教室などの学習の場に繋ぎ、将来的な登校復帰、社会的自立につなげる。</li> <li>・問題行動等学習支援員を増員し、学校のニーズに対応していく。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・文科省より、不登校児童生徒への支援は「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、関係機関と連携し、学校若しくは学校以外の学習の場に繋ぎ、将来的な登校復帰、社会的自立につなげるという指針が示されていることを踏まえ、不登校児童生徒のうち学校及び学校以外の学びの場につながった児童生徒の割合を「毎月の問題行動調査」や年度末の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」で効果を検証する。

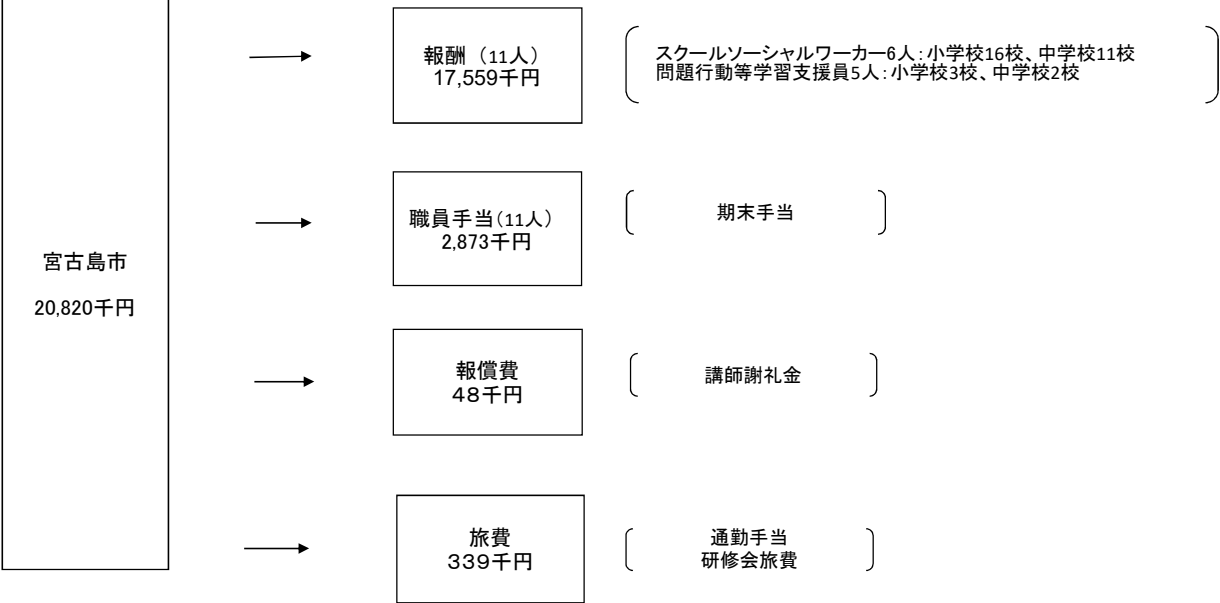
・学校との連携がスムーズにいくように学校訪問による事業の周知と生徒指導研修会、校長研修会、教頭研修会などで、効果的な連携支援について推進していく。

・連携を必要とする福祉部や医療や警察など関係機関連絡会の開催を通して、宮古島市全体の子供の状況を共有化し連携を強化する。また、問題行動等学習支援員、スクールソーシャルワーカーの学校の現状に応じた効果的な派遣を図る。

・事例検討会、講習会等への参加を増やしてスクールソーシャルワーカー、問題行動等学習支援員の資質向上を図るとともに、スーパーヴァイザー的な人材を確保する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
20,820	20,820	16,656	4,164	0



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○スクールソーシャルワーカー等の選定は、専門的な知識や技術、経験等に基づいており妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○長期実績を踏まえたSSW配置人数は適正で、その報酬額は本市要綱に基づき予算化しており、事業内容に見合った適正規模であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については、報酬をはじめ、SSWの資質向上に向けた研修会派遣など、事業目標達成の観点から真に必要なであったと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	選手派遣支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ウ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充		
事業内容	宮古島市立学校のスポーツ・文化活動を振興するため、対外行事・試合などの奨励に資するとともに、参加する児童生徒の派遣にかかる費用の保護者負担を軽減する目的で、航空運賃に係る費用の一部を補助する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		16,189	16,925	17,471	21,991	31,990
			17,589	22,723	7,146	14,991	31,990
			1,400	5,798	▲ 10,325	▲ 7,000	0
			0	0	0	0	0
		B. 執行済額	17,546	21,990	2881	11,507	23,666
		うち交付金充当額	14,036	17,592	2304.8	9,205	18,933
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	99.8%	96.8%	40.3%	76.8%	74.0%
		予算の状況の説明	令和4年度も新型コロナウイルス感染状況の影響により、一部の派遣が中止となった。 また、フリーエントリー大会を補助対象に加えた初年度にあたり、予算の見直しを持つことが難しく、8,324千円の不用額が発生した。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	児童生徒の大会派遣(県内・県外)	目標	( 児童生徒の大会派遣 )	( 児童生徒の大会派遣 )	( 児童生徒の大会派遣 )	( 児童生徒の大会派遣 )	
		実績	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣	
		目標	(            )	(            )	(            )	(            )	
	実績						
達成状況説明	スポーツや文化面で島外へ派遣される延べ2,657人の児童生徒に対し旅費を補助し、保護者の経済的負担軽減を図った。 ○主な派遣先 ・小学生: 県内「第37回沖縄県ミニバスケットボール冬季選抜大会」131名、県外「モダンプロジェクト第11回全九州学童軟式野球大会」17名 ・中学生: 県内「第62回沖縄県吹奏楽コンクール」80名、県外「第67回九州吹奏楽コンクール」45名						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	児童生徒が広い視野を持たせたか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより、本事業のあり方を検証する	目標	(            )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(            )
		実績		99.0%	97.0%	98.0%	
		目標	(            )	(            )	(            )	(            )	(            )
		実績					
進捗状況説明	・保護者アンケート「お子さんが広い視野を持たせたと思いますか」という問いに「そう思う」「ややそう思う」と答えたのは98%であり、目標達成できた。						

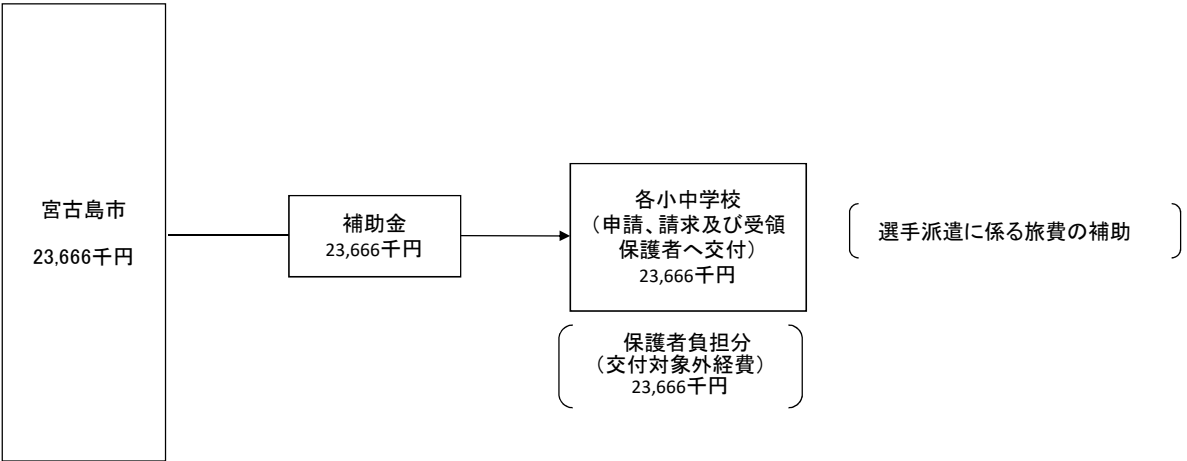
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度も新型コロナウイルス感染状況の影響により、一部の派遣が中止となった。また、フリーエントリー大会を補助対象に加えた初年度にあたり、予算の見通しを持つことが難しく、例年に比べ低い執行率となった。</li> <li>制度の改正により、補助対象を拡大したため、派遣人数・申請件数共に著しく増加した。</li> <li>アンケート調査の結果、成果目標を達成できた要因は、島内では対戦相手が限られているため島外派遣により他チームとの差を知ることができたこと、新たな目標を持つことができたこと等となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手続き簡略化をしてほしいとの要望がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

令和4年度時点の要綱では補助の対象となっていなかった宮古島市内の県立学校児童生徒も支給対象に加えるほか、事後申請を可能とする手続き簡略化のため要綱を改正し、令和5年度から施行する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
47,332	23,666	18,933	4,733	23,666



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣される児童生徒を取りまとめる学校長・団体代表者・選手を支出先とすることは適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行率は新型コロナの影響はあったが、74%と前年同水準である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○航空運賃に対する一部補助であり受益者である保護者の負担もあることから負担関係は妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、交付要綱に基づいた目的に限定して検査及び交付している。

市町村名	宮古島市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-③	宮古島市文化ホール舞台設備等機能強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ		
担当部署名	生涯学習部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	宮古島市文化ホールは、本市における文化芸術の振興拠点として、市民への多彩な文化芸術の機会を創出することが求められている。しかしながら、施設の供用開始から26年が経過しており、旧型の現状設備では多様化する利用者からのニーズに対応することが困難であるため、舞台設備等の機能強化を図り、公平な生涯学習の機会を確保し、今後の幅広い活用に繋げる。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	366,300				
		(b)予算現額	351,976				
		(c)増減額(b-a)	▲14,324				
		(d)繰越額	0				
	A.計(b+d)	351,976					
	B.執行済額	351,976					
	うち交付金充当額	251,580					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	入札残のため、3月補正で14,324千円減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	宮古島市文化ホールの舞台照明設備等を更新し、機能の強化を図る。	目標	( 工事の実施 )	( )	( )	( )	
		実績	工事の実施				
		目標	( )	( )	( )	( )	
実績							
達成状況説明	年度内に予定していた工事を完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(R1年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R5年度)
	【R5成果目標】 文化ホール入場者数	目標	( 28,000人 )	( )	( )	( )	( 42,000人 )
		実績					
	宮古島市文化ホール舞台照明設備等の設備更新工事の完了	目標	( )	( 工事完了 )	( )	( )	( )
		実績		工事完了			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事は年度内に完了した。令和4年度利用者については、工事期間中の利用停止期間が長い為、基準値としては、R2.3年度はコロナ禍における入場制限もあり参考実績とはせず、R1年度を設定した。</li> <li>・機能強化された舞台装置をPRし、利用者の増加を目指すことにより、来場者数の増加を図る。</li> </ul>						

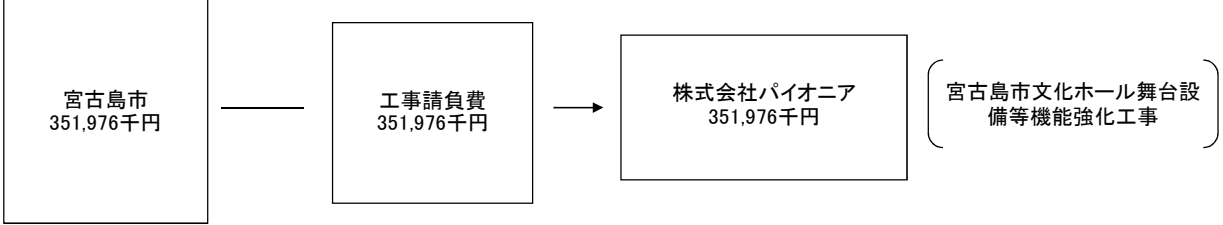
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	施設の利用停止期間があるため、イベント主催者等との日程調整等を実施する必要があった。 また、工事機材は島外から船舶での運搬となるため、工事期間を余裕を持って設定する必要があった。	イベント主催者等との利用調整も問題なく調整ができた。 工事期間に余裕を持ったことで、工期内に無事完了することができた。 今後は、イベントの開催調整に協力してくれた方々と協力し、施設の利用頻度を向上させていく必要がある。

**今後の取り組み方針**

(文化ホール入場者数)  
 ・機能強化された舞台装置をPRL、利用者の増加を目指すことにより、来場者数の増加を図る。  
 ・多様な自主事業を企画・開催することにより、来場者数の増加を図る。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
351,976	351,976	251,580	100,396	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	—
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については設計段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。



市町村名		宮古島市										
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	7-① 下地島空港を活用した航空貨物輸送体制構築		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-3-(7)-ウ							
	企画政策部 企画調整課		事業実施 (予定)年度	令和3～令和4年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	自立型経済の構築に向けた 基盤の整備						
担当部署名	企画政策部 企画調整課		事業実施 (予定)年度	令和3～令和4年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-9						
事業内容	宮古圏域における農水産物等の移出量増及び滞貨状況の改善等を図るため、貨物上屋のない下地島空港において航空貨物輸送体制を構築することで、農水産物や加工食品など産業関連物資の物流ルートの多様化、輸送体制の最適化等による物流の効率化を図る。											
効果発現年度	■当年度      ■後年度(R5年度)											
実施方法	□直接実施    ■委託    □補助    □負担    □その他( )											
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の 状況	R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		
		(a) 当初予算額	16,441		15,362							
		(b) 予算現額	16,441		15,362							
		(c) 増減額(b-a)	0		0							
		(d) 繰越額										
		A. 計(b+d)	16,441		15,362							
		B. 執行済額	16,264		14,283							
		うち交付金充当額	13,010		11,425							
		次年度繰越額										
		執行率(%) (B/A)	98.9%		93.0%							
予算の状況の説明		不用額1,079千円は、委託経費のうち旅費の部分で、別の業務との工程と組み合わせるなど工夫や、北海道へのトライアル鮮魚輸送が天候不良のため業務委託期間中に実現しなかったことにより未消化となり、需用費については試食会や宮古島フェア開催の費用が想定より安く実施できたためであり、適正な業務執行を踏まえた結果である。										
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況									
			R3年度		R4年度		R5年度		R6年度			
	下地島空港からの航空貨物輸送、貨物上屋の調査	目標	( 貨物輸送実施 )	( 貨物輸送実施 )	( 貨物輸送実施 )	( 貨物輸送実施 )	( 貨物輸送実施 )	( 貨物輸送実施 )	( 貨物輸送実施 )	( 貨物輸送実施 )	( 貨物輸送実施 )	( 貨物輸送実施 )
		実績	貨物輸送実施	貨物輸送実施	貨物輸送実施	貨物輸送実施	貨物輸送実施	貨物輸送実施	貨物輸送実施	貨物輸送実施	貨物輸送実施	貨物輸送実施
	販路拡大支援(物産展など)	目標	( 販路拡大支援 )	( 販路拡大支援 )	( 販路拡大支援 )	( 販路拡大支援 )	( 販路拡大支援 )	( 販路拡大支援 )	( 販路拡大支援 )	( 販路拡大支援 )	( 販路拡大支援 )	( 販路拡大支援 )
実績		飲食店を対象とした農水産品の展示・試食会	飲食店を対象とした農水産品の展示・試食会	飲食店を対象とした農水産品の展示・試食会	飲食店を対象とした農水産品の展示・試食会	飲食店を対象とした農水産品の展示・試食会	飲食店を対象とした農水産品の展示・試食会	飲食店を対象とした農水産品の展示・試食会	飲食店を対象とした農水産品の展示・試食会	飲食店を対象とした農水産品の展示・試食会	飲食店を対象とした農水産品の展示・試食会	
達成状況説明		本業務を通じ、①輸送体制の継続構築、②輸送量の拡大・安定化を図った首都圏・関西圏向け飲食店フェア、③貨物上屋の必要規模の整理を実施した。										
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)		R3年度		R4年度		R5年度		目標値 (R5年度)	
	下地島空港における航空貨物輸送体制の構築	目標	( )	( 輸送体制構築 )	( 輸送体制構築 )	( 輸送体制構築 )	( 輸送体制構築 )	( )	( )	( )	( )	( )
		実績			輸送体制構築	輸送体制構築	輸送体制構築					
	【R3成果目標(後年度)】 下地島空港における航空貨物取扱量 令和4年度:584t/年		目標	( )	( )	( 584t/年 )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
			実績				321t/年					
	【R5成果目標】 下地島空港における航空貨物取扱量 令和5年度:630t/年		目標	( )	( 航空貨物取扱量 )	( 航空貨物取扱量 )	( )	( )	( )	( )	( )	( 630t/年 )
		実績			277t/年	321t/年						
進捗状況説明		本業務を通じ、①継続した輸送体制の構築、②販路拡大による輸送量の増大が図れたが、結果として、R3年度事業計画時のR4年度輸送目標の達成には至らなかった。										

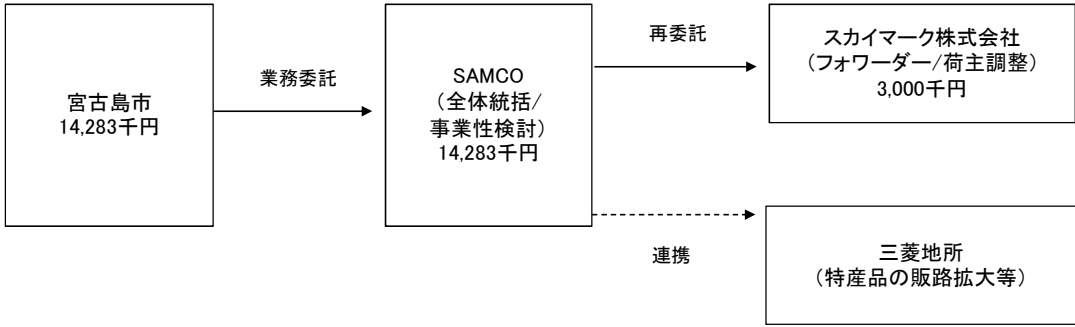
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	販路拡大の支援策として、消費能力の大きい首都圏、関西圏での飲食店向けフェアを実施したこともあり、輸送量は増加した。輸送量は増加したものの、令和3年度事業計画時点の輸送量目標を達成することはできなかった。輸送量としては目標に達していないものの、輸送体制の構築としては達成できたと考えている。	販路拡大イベントを実施したことによって、令和3年度よりも取り扱い物流量が増加し、輸送体制の持続性が向上したと考えている。一方で、移出物量に対する移入物量が低い状態であるため、移入物量が増加することによって更なる安定化を図ることができるため、令和5年度以降の取り組みとしては、移入物流について再度検討する必要がある。

**今後の取り組み方針**

物流ルートの多様化、輸送体制の最適化等に取り組むためにも、取扱量を増やすための既存路線(下地島=羽田便/那覇便)における取扱量の最大化に加え、下地島=神戸/成田便といった横展開も図る。  
 他路線への展開について、スカイマークからは足元の厳しい事業環境に鑑み、設備投資等(人件費以外の)固定費発生が伴う事業への取組みは難しいとの見解を得ており、貨物取扱いに応じた費用負担を前提とするスキーム構築を行う。  
 供給量に応じた(間尺に合った)販路開拓/拡大への市内農水産品の生産・販売を増やす官民連携の「持続的な」取組みを図る。  
 令和4年度事業において、上屋の必要性についてはある程度整理ができたため、令和5年度の取り組みとしては取り扱い物流量を安定化させることで、持続的な輸送体制の構築につなげていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
14,283	14,283	11,425	2,858	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○検証に適正な規模であった。 ○事業内容や事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宮古島市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	地下水保全調査事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	6-3-(4)-ウ		
	担当部署名	水道部 水道総務課	事業実施(予定)年度	平成29年～令和4年度	生活環境基盤等の整備		
事業内容	地下水を唯一の淡水資源とする本市では、水道水源の保全が社会の成立案件となっていることから、持続的な社会を構築するため、地下水の保全に取り組むための境界位置精度向上調査を行う。 東添道地下水流域は、本市の水道水源保全地域に指定されているが、その境界位置を確定するには調査資料等が不足しているため、地表形状から推定で境界位置を定めているところである。今回は境界位置が不明瞭な東添道南西部での調査を行い、その流域保全範囲の精度を高め、今後の地下水保全につなげていく基礎資料を得る。						
	効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R5年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	37,000	79,037	89,595	67,524	34,991
	(b) 予算現額	34,560	79,037	110,612	76,154	48,365	
	(c) 増減額(b-a)	▲2,440	0	21,017	8,630	13,374	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	34,560	79,037	110,612	76,154	48,365	
	B. 執行済額	34,560	77,000	110,612	76,154	48,365	
	うち交付金充当額	27,648	61,600	88,489	60,923	38,692	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		令和4年度当初申請時は事業費34,991千円であったが、事業実施中に追加調査の必要性が生じたため年度途中での変更契約に係る増額申請を行い、総事業費48,365千円(増13,374千円)となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
	①東添道地下水流域の境界位置精度向上調査	目標	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		実績	(伊良部島水源可能性調査実施)	(伊良部島水源流域候補地選定調査)	(伊良部島水源開発調査)	(東添道流域境界位置精度向上調査)	
	目標	( )	( )	( )	( )		
	実績						
達成状況説明	本年度の調査では、東添道地下水流域、平良地下水流域及びその周辺において、境界位置精度向上のための地質調査として、ボーリング調査、比抵抗法垂直探査、地表地質踏査等を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R5年度)
	①東添道地下水流域の境界位置精度向上調査	目標	( )	(伊良部島水源流域候補地選定調査完了)	(伊良部島水源開発追加調査完了)	(完了)	( )
		実績		(伊良部島水源流域候補地選定調査完了)	(完了(伊良部島内の予備水源候補地1箇所選定))	(完了)	
	目標	( )	( )	( )	( )	( )	東添道地下水流域面積の特定
	実績						
進捗状況説明	当初の予定どおり、東添道地下水流域の境界位置精度向上調査を完了することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>東添道地下水流域の境界位置精度向上調査において、東添道地下水流域の南西側は、境界位置が当初より外側に広がる結果となった。本事業の境界位置の変更に伴い、東添道地下水流域の面積は変更前12.66km<sup>2</sup>→変更後13.08km<sup>2</sup>となり0.42km<sup>2</sup>増加する見通しとなっている。</p> <p>東添道地下水流域の南西側には水道水源保全地域ではない川満地下水流域、上野地下水流域が隣り合っている。これまで、その一帯においては、調査資料が乏しく、川満地下水流域及び、上野地下水流域が汚染された場合に東添道地下水流域に及ぼす影響についての懸念があったが、今回の調査において、東添道地下水流域に影響を及ぼさないことが推定される結果が得られた。</p>	<p>今年度の調査において、東添道地下水流域の境界位置は、現在指定されている水道水源保全地域の境界位置より南西側に若干の広がりがあることが推定された。これらの範囲では、今後必要に応じて追加調査を実施した上で、水道水源保全地域の拡大を検討する必要がある。</p>

**今後の取り組み方針**

東添道地下水流域、平良地下水流域及びその周辺において、地下水境界位置精度向上のため、地質データの少ない平良地下水流域の南西側の地下水境界位置周辺でボーリング調査を実施し、正確な地下水境界位置の把握に努めていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
48,365	48,365	38,692	9,673	0



①東添道地下水流域の境界位置精度向上調査

資金の流 使途の点 検・費目 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○専門的な調査内容であり、適正であるとする。</p> <p>○本事業の受注コンサルタントはこれまで宮古島の地質及び地下水について調査実績が豊富である。その調査結果は唯一の淡水資源とする本市においては、市民生活、観光サービス、その他の産業を支えるため、水道原水となる地下水の保全是必要不可欠であるため、今後においても継続調査を行う必要がある。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	10-①	バス停上屋整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア		
担当部署名	建設部 道路建設課	事業実施(予定)年度	令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	観光客が強烈な日差しや風雨を避け快適にバス停を利用できるようにするため、利用者の多い大型商業施設付近のバス停上屋を整備する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 令和 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		11,824				
			12,581				
			757				
			0				
		B. 執行済額	12,581				
		うち交付金充当額	10,064				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	100.0%				
		予算の状況の説明	埋設管の影響により基礎設置箇所を変更したことで施工範囲が広がり、追加工事があったため当初予算計上額よりも増額が必要となり、757千円を他事業予算から流用した。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)	達成状況					
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
	バス停上屋設置工事(1基)を実施する。	目標	( 1基 )	( )	( )	( )	
		実績	1基				
		目標	( )	( )	( )	( )	
実績							
達成状況説明	予定していたバス停上屋設置工事を完了し、上屋を1基設置した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R年度)	
	バス停利用者を対象として、快適にバスを利用できるようになったか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方について検証する	目標	( )	( 80%以上 )	( )	( )	( )
		実績		90.0%			
	バス停上屋設置工事(1基)の完了	目標	( )	( 設置工事(1基)完了 )	( )	( )	( )
		実績		設置工事(1基)完了			
進捗状況説明	利用者の満足度について、バス停利用者に聞き取りアンケートを実施し「良くなった」との回答を9割以上得られ、成果目標を達成した。						

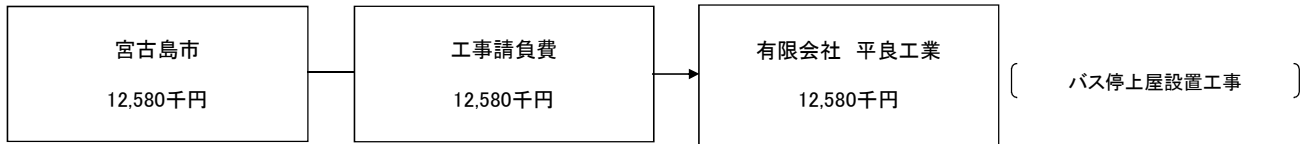
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光客が多く利用する大型商業施設付近のバス停に上屋を設置したことにより、日差しや風雨を防ぐことができたため、成果目標を達成したと考えられる。	沖縄の強烈な日差しには屋根が必要であり、設置箇所を増やしてほしいとの要望が多いことから、今後検討していきたい。

**今後の取り組み方針**

整備完了したバス停下屋を利用してもらえるよう、ホームページ等の案内により周知を図っていききたい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
12,580	12,580	10,064	2,516	0



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約での業務執行であるが、市契約規則に基づき選定しているため、妥当であったと考えている。 ○予算規模は適正なものであったと判断している。 ○費目、用途については予算執行伺い及び工事完成検査等において確認しており、適正であったと判断している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	